

7. 眼の疾患

文献

佐藤信、竹内裕子、坪根光伸、ほか. 眼精疲労に対する鍼治療の検討. *東洋療法学校協会学会誌* 2013; 36: 115-118. 医中誌 Web ID: 2013249983

1. 目的

眼精疲労による諸症状に対する鍼刺激の影響の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

信州医療福祉専門学校、長野、日本

4. 参加者

実験への参加を募集して集まった 16 名 (男 7 名、女 9 名、平均年齢 31.6±14.4 歳)

5. 介入

Arm 1: 刺鍼群。ステンレス鍼 (0.18×40mm、セイリン社製) を左右の天柱 (BL-10)、風池 (GB-20)、脳空(GB-19)、肺俞 (BL-13)に刺入した後、10 分間置鍼。抜針後仰臥位にて 5 分間安静の後視力検査とアンケート実施。

Arm 2: 無刺激群。腹臥位で 10 分間安静の後、5 分間仰臥位にて安静。その後視力検査とアンケート実施。

6. 主なアウトカム評価項目

ランドルト環を用いた視力、眼精疲労による諸症状の程度 (体調、めまい、耳鳴り、頭重感、頭痛、肩こり、目の疲れ、目の乾き、見えにくい、目のかゆみ) に対する Visual analogue scale (VAS)、心拍変動解析 (HRV)による平均心拍数、LF、HF、LF/HF。

7. 主な結果

視力の前後比較は、左目の無刺激群は有意差がみられなかったが、左目刺鍼群 ($P<0.01$)、右目両群 ($P<0.05$)において有意に向上した。VAS の前後比較は、眼の疲れの刺鍼群で有意に改善したが ($P<0.05$)、その他の項目では有意差がみられなかった。HRV の前後比較は、平均心拍数の各経穴刺鍼群と、LF/HF の肺俞を除く各経穴刺鍼群で有意に減少した。HRV の群間比較は、いずれの項目も有意差がみられなかった。

8. 結論

鍼刺激により心拍数が減少し、視力向上と眼疲労軽減が認められた。

9. 鍼灸医学的言及

神経性、血管性、自律神経性の働きが眼精疲労および視力の改善に寄与した。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は眼精疲労に対する鍼治療の有効性を、主に視力を指標として評価し、自律神経の動向も踏まえて考察した点において高く評価される。無刺激群との比較により、鍼治療が持つ総合的な治療効果が示された。しかしながら、ランダム割り付けが適切に行われていたかどうか不明であり、また実際の鍼刺激の目安(深度および得気の有無等)が明らかでないため再現性に乏しい点が残念である。今回の研究では様々なアウトカムが計測されているため、探索的意味合いを持つ研究であったのではないかと想像される。今後は本研究結果を参考に主要アウトカムを設定し、副次的アウトカムに関しても絞り込んだ形で追試が行われることを期待する。

12. Abstractor and date

保坂政嘉、大川祐世 2016.10.4